

人間の7つのシステムに関するバハイ信仰からの見地

エレイン・マックレリー

(要旨)

作者は、この論文をバハイ学術研究会に提出するよう、シュエリン・公子氏の方から要請された。この論文は、人々が同時に住む、7つの極めて異なった活動レベルがあること、そしてこれらの7つのシステムのそれぞれが、調和に向かって努力していることを提示している。始めに、鍵となる概念を示す。

「システム」（機構、組織、仕組み）という概念は、互いに作用し合い、そのシステムを中心に自己統制する、ある種の、あるいは組織する、原理または力を持つ部分の存在を示している。

「世界」という概念は、経験の場を示している。これらの異なった「世界」はその特徴によって互いに区別できる。

「家族」という概念は、システムと世界の特徴を結合する。家族構成員は、物質的経験を持つ精神的存在である。それらは、異なった世界あるいは経験の場で互いに作用し合い、神聖に明らかにされた倫理を媒介として、潜在的に自己規制している。

この論文は、経験の世界には人間関係の7つのタイプがあること、そして、それらを家族の型と見なすことができることを提案している。

1. 伝統的家族、結婚と子育てを中心に行っている。
2. 世界家族、地球上の全人類からなる。
3. 国民家族、国境内に住む全員からなる。
4. 友情家族、この世では、環境によって負わされている家族を受け入れるよりむしろ、家族を選べる。
5. 日常家族、これは、日常生活で会う人々についてあてはまる。
6. 精神家族、これは、生活の活気のある経験からなり、出会うすべての人を含む。ある意味で、精神家族は外部家族のすべてを含み、反映する。暮らしの経験を意味のある全体に統合しようとする努力は、魂の精神的働きである。ちょうど、地上の神の王国は、魂の外部の働きであるのと同じように。
7. 歴史的家族、過去の世代にさかのぼったり、未来の子孫に向かう双方で、私たちは過ぎ去った人々と後から来る人々と切れることのない鎖でつながっている。

これらの異なった「家族」関係の型を考えて見ると、人間関係はいかに複雑であるかが理解できる。すべての人間関係において、目標は、バハイ信教の教えに導かれた、調和した和合を見いだすことでなければならない。